

# サイ・テック 知と技の発信

【230】

## 埼玉大学・理工学研究の現場

■人間との良い関係  
現代の生活はコンピューター  
存在なしにはあり得ません。  
例えば、何気なく使っている  
携帯電話も小型コンピューター  
です。携帯電話で情報のやり取  
りをする際に、コンピューター  
を使用しているといつことをあ  
まり意識しないかもしれませ  
ん。しかし、その使いやすさは  
もむらまつ・けいいち 19  
83年生まれ。早稲田大学大  
学院修了。博士(人間科学)。  
早稲田大学人間科学学術院助  
手を経て、2014年9月か  
ら現職。専門は感性情報学、  
知識工学。



もむらまつ・けいいち 19  
83年生まれ。早稲田大学大  
学院修了。博士(人間科学)。  
早稲田大学人間科学学術院助  
手を経て、2014年9月か  
ら現職。専門は感性情報学、  
知識工学。

# 埼玉経済

## コンピューターによる感性理解

村松 慶一 大学院理工学研究科 助教

には、生活や仕事で人間関係を  
築くのと同じように、人間とコ  
ンピューターの関係を考えなけ  
ればならぬと云うことです。良  
好な人間関係を築くためには相  
手に自分のことをよく知っても  
らう必要があります。

同様に考えれば、人間とコン  
ピューターがより良い関係を  
築くためには、人間の知性と感  
性をコンピューターに「理解」  
してもらわなければなりません。  
当然ながら、人間がするよ  
うな本当の意味での理解はコン  
ピューターには難しいでしょ  
う。

しかし、人間のことをあなたか  
も理解しているかのようなイン  
ターフェイスを実現することは  
可能で、それが今後の大きな課  
題の一つだといえます。人間と  
コンピューターで気心が知れる  
ような関係を目指すのであれ  
ば、特に人間の感性に着目した  
インターフェイスが必要だとい

えます。

■知見を蓄積する必要  
色彩に対する感情的反応は色  
彩感情と呼ばれており、形容語  
を用いて評定するアンケートな  
どによって測定されます。

色彩感情に関する研究の主な  
関心の一つは、その評価構造を  
明らかにすることです。色彩は  
人間の心に直接的に強い影響を  
与えるため、インターフェイス  
の設計において重要な要素の一  
つです。

色彩科学の研究分野では、こ  
れまでに単色や配色に対する評  
価構造が検討されてきました。  
その成果として、「明るいー暗  
い」「温かいー冷たい」といっ  
た色彩の見え方に関する印象に  
ついてはかなりの精度で予測で  
きるようになっていきます。

しかし、「好きー嫌い」「良  
いー悪い」といった嗜好(し)好  
に関する印象は個人差や文化差  
が大きいために予測はおろか、  
討を行いたいと考えています。

一般化された知見が十分に得ら  
れていません。

■より良い関係の構築  
また、人間のことをコンピ  
ューターにどこまで「理解」して  
もらうかということも考える必  
要があります。

心理学では意識することので  
きる態度が顕在的態度と呼ばれ  
るのに対して、意識することの  
できない態度は潜在的態度と呼  
ばれています。意識されない態  
度までを「理解」の対象にする  
のであれば、形容語を用いたア  
ンケートだけでなく、身体的生  
理的反応も考慮しなければなら  
ません。

これらを踏まえながら、人間  
とコンピューターのより良い関  
係の構築を目指して多角的な検  
討を行いたいと考えています。

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください  
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040  
keizai@saitama-np.co.jp